アカデミア・コンソーシアムふくしま　ニューズレター

れんけい

第　９　号
平成２５年　５月　１日（水）　発行

編集・発行
アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

〒960-1296　福島市金谷川1番地
福島大学 地域連携課内
電　話　024-548-5295
メール　acf@adb.fukushima-u.ac.jp
ＵＲＬ　http://acfukushima.net/

「人は育つもの」，新たな年度の活動に向けて

アカデミア・コンソーシアムふくしま
事業推進会議　　議長　　小沢　喜仁

平成25年度がはじまり，すでに１ヵ月が経ちました．10月から本格実施されてきている本事業ですが，皆さまのご協力をいただきまして無事昨年度の報告書や経理の処理を行い，着実に成果が上げられていることをたいへんうれしく思っております．皆さまのご協力に改めて感謝申し上げます．

年度末に実施した，事業のなかでも，とくに合宿型研修会は私の印象に強く残りました．3月2日と3日の二日間にわたり教職員と学生が「強い人材づくりとは」について議論をする「合宿型研修会」です．キャノン福島の代表取締役社長深澤秀樹様と昭和村NPO法人 苧麻倶楽部（ちょまくらぶ）事務局長尾崎嘉洋様を講師としてお呼びして，企業としての立場と地域に根ざした団体としての立場からご講演をいただきました．講演後に，講師にも加わっていただいた，それぞれの参加者が考える「強い人材」のイメージや必要とされる要素，そしてその育て方について付箋紙と模造紙を利用してのワールドカフェ方式での課題抽出を行ったのですが，まさにいろいろな考え方があるということが明らかとなりました．さらに翌日には，これをもとに改めて各自が考えること，これに向けた方策などを出し合って高めていきました．これをファシリテートする人がビデオでの記録やこれを直ちにコンピュータで処理してスクリーンに映し出して参加者のとの情報共有を図るなど，効果的に進めることができました．

議論をしましょうといっても簡単なことではありません．一つの方法に従いながら，意見を出すことへの心の障壁？を下げ，お互いが持つ考えを共有していく．そんなプロセスの必要性を改めて感じ．またこのプロセスに自然に最先端の情報機器が入り込み，それを学生たちが受け入れている．教育の場での情報機器利用についてもおおいに示唆あふれるものとなりました．

講師を務められた深澤さんは「人は育てるものではなく育つもの」ということをある会議の中で発言されていらっしゃいました．知識の伝達がたいせつと考える教育の方法に対して，「探求型」「試行錯誤型」の教育，人の育つことを適切に見守る，自らの背中で教えるなど種々の方法論とともに改めて教育の方法を見直す機会となったように考えています．この事業ではみんなで学生が育っていくことを見守る必要があります．

大学間連携共同教育推進事業のご報告

◆　平成24年度ラウンドテーブル会議を開催しました

３月27日、郡山市内において各大学ならびに福島県の関係者が出席し、ラウンドテーブル会議が開催されました。この中では平成24年度に取り組んだ、大学間連携共同教育推進事業「ふくしまの未来を拓く『強い人材』づくり共同教育プログラム」の成果の報告を踏まえ、各大学や福島県は今後この事業にどのような期待をしているのか、また福島県内の各大学はどのような学生を輩出し、ステークホルダーはどのような人材を求めているのか、ということを主たる論題として、議論が展開されました。

ここでの意見は、平成25年度以降に共同化され、この事業の推進に役立てられることになります。年度末ではありましたが、たいへん有意義な会議となりました。

◆　大学間交流セミナーin只見２０１３を実施しました

２月２７日～２８日、記録的な降雪量に見舞われた只見町で、教員・保育士を目指す学生３３名、引率５名が参加して実施されました。この企画は中山間地域

における教育の現状について理解し、教育の課題や効果的な教育方法を抽出することを目的としています。
参加学生は只見町で実施されている少人数を活かし工夫された授業や保育の見学、また小学校の卒業式準備のため玄関周辺の除雪体験を通して、教員や保育士は授業や保育だけでなく子どもたちの安全確保のために除雪等も業務であることを学びました。参加学生は只見町の子どもたちがいきいきした目で活動する姿を見て、教師や保育士になる夢を膨らませていました。２日間の活動を通して、学生たちは大学の枠を超えて交流し、目指す職業が同じであることで互いに刺激しあう様子が見受けられました。

◆　三宅島訪問・調査を実施しました

学生２５名、引率５名は、３月５日（火）～９日（土）に三宅島訪問・調査に行ってきました。三宅島は２０００年の噴火後、４年５ヶ月間の全島避難をしました。現在は帰島して火山ガスと共生しています。参加学生は事前学習会や川内村訪問・調査を通して学んだ課題を中心に、三宅村役場・中央診療所・三宅村商工会・住民のヒヤリングや三宅村活動火山非難対策施設や三宅島郷土資料館の見学を積極的に取り組む姿がありました。福島県と三宅島は人災と天災という大きな違いがありますが、全島避難から帰島といった類似点も多くありました。参加学生のレポートからは、自分たちが三宅島で学んだことを参考にして、福島県の復興にどのように活かせるかを模索していることが伺えました。

◆　リスクコミュニケーション研究会を開催しました

３月１４日（木）にリスク・コミュニケーション研究会（参加者１４名）を開催しました。この企画は放射線の状況・対策に関する情報発信プログラムに組み込まれておりますが、「リスク社会」一般をテーマに据えて考えていくものです。

初回である今回は同志社大学・中谷内教授を招いて、一般の人々のリスクについての見方、感じ方の心理学的な基盤や信頼はどのような要素で決まってくるのかについて講演していただきました。参加者からは、「説明する相手に得心してもらうためにはどうすればよいか？」などの活発な質問が多数出され、今後の活動につながる充実したものとなりました。

事務局からお知らせ

◆　職員の異動について

下記のとおり異動がありましたので、お知らせいたします。

【任期満了による退職】

事務補佐員	只野　恵美子	3月31日付
研　究　員	川口　晶子	3月31日付
研　究　員	安斎　悠史	3月31日付
研　究　員	佐藤　亮介	3月31日付

【任用】

事務補佐員	渡邊　知子	4月1日付

コラム ～ ACふくしまの事務局から ～

◆　学食めぐりを楽しむ

研究員　　岩本　正寛

以前、一人で外食ができない人に関する記事を読んだことがありますが、実は私、そのタイプなのです。旅先のホテルでコンビニ弁当が夕飯になることも、実はしばしば。その土地の名物も食べずに、寂しいもんです。
ただ、誰かと共に行く分にはまったく気になりません。だから、仕事で各大学にお邪魔をしたときは、ランチミーティングと称して、教職員の方にそのキャンパスの中にある学食に連れていっていただいています。
意外なことに、学食の価格帯もメニューのバリエーションも、会計の仕組みも暗黙のローカルルールも、それぞれの大学で違います。まずはこれが面白い。
そして、学食といえば学生たちが一番気兼ねなく雑談をする場所でもあります。この大学ではこんなことが流行っているのか、この大学ではあの先生の講義が評判なのか、そんな話を背中で聞きつつ、その大学の名物メニューに舌鼓を打つわけです。
まだお邪魔できていない学食がいくつもあります。今年度の目標は、県内すべての学食の踏破。はてさて、実現するのでしょうか。

次号は６月１５日（水）の発行予定です。